

令和5年度 学校評価「子どもが育つ学校～こころ・からだ・きずな～」

学校教育目標 「児童生徒一人一人の可能性を可能な限り伸ばし、社会の一員として自立し自己実現と共生に向けて主体的な取組を行える児童生徒の育成を目指す」

令和5年度 学校自己評価目標

- (1) 安全・安心で美しい学校をめざします。
- (2) 学校から積極的に情報を発信し、家庭・地域とさらに多様につながります。
- (3) 校務や教育におけるICT機器の活用を推進します。
- (4) 校内研修を充実させ、教職員の資質向上を図ります。
- (5) 社会的自立に向けたキャリア形成の支援に努めます。

令和5年度学校評価(自己評価)

	学部・分掌目標	具体的な取組
小学部 重点目標 (3)(5)	1 キャリア教育における挨拶と人のかかわりを重視し、自分なりの方法で挨拶や返事をしたり、友達や教師に呼びかけたりすることができる。 2 キャリア教育における役割の理解と分担を重視し、決められた仕事を最後まで行うことができる。	1 朝の会や終わりの会で挨拶や呼び返し返事をする場面を設定して、継続的に取り組む。また、友達や教師と関わる際に声をかけたり、肩をたたいたりして呼びかけるよう指導支援を行う。 2 児童の実態に応じた朝の会の司会や当番活動を設定し、教師と一緒にいたり、繰り返し取り組んだりして定着できるように指導支援を行う。
中学部 重点目標 (3)(5)	1 学習活動や日常生活の指導において、自分の役割の理解と活動を重視し、最後まで役割をやり遂げようとする態度・意欲を身に付ける。 2 場や状況に応じて適切に行動できることを意識でき、状況に応じた挨拶を知り、適切な言葉遣いで他者との関係を意識できるようにする。	1 学級活動や授業等において、当番活動や係活動を設定し、一人ひとりに応じて取り組みやすいように支援を工夫する。役割を明確にし、個々の実態に合った取り組みやすい活動から始め、自己肯定感を高める。 2 授業や日常生活において、状況に応じた挨拶の仕方を伝え、場面ごとに挨拶を促す。「ありがとう」「手伝ってください」等を伝える状況を設定し、ICT機器やイラストカード等の支援ツールを活用しながら、他者とのやり取りを促していく。
高等部 重点目標 (3)(5)	1 人とのコミュニケーションを大切に、場に応じた挨拶、返事などを含めた人との接し方を身につけられるよう指導支援を行う。 2 社会的自立を目指し、責任をもって自分の役割が果たせるよう指導支援を行う。	1 課題学習、SST、HRなどの時間を利用し、場に応じた挨拶や返事の仕方などを繰り返し伝え、練習する。語先後礼の挨拶、適切な声の大きさでの返事、身振りでの応答、他人との距離感などの個々の課題に応じた目標を設定し、わかりやすく提示するなどして自発的に取り組めるようにする。 2 朝の会、終わりの会、係活動、委員会活動などにおいて、個々の役割を説明し、繰り返し取り組むことで、自分の役割を理解し、自ら取組めるように支援する。クラスの一員としての役割を自ら果たせるよう、個に応じて視覚支援やICT機器を活用するなどし、わかりやすい方法で示す。
分教室 重点目標 (2)(5)	1 生徒が自立に向かう意識を高められるように、家庭と連携しながら、生徒自身でできることが増えるようにする。 2 卒業後の生活を見据えた進路実現ができるよう進路指導の充実を図る。 3 交流及び共同学習の充実・発展を目指す。	1 学校生活の様子を具体的にHP(ブログ)や通信・連絡帳で伝える。個々のできていることとできていないことを家庭と共有し、個人の能力が発揮できる環境づくりに努める。 2 各学年と進路担当との連携を図るだけでなく、分教室全教師でその生徒が目指す進路を共有し、日々の活動で意識した関わりをする。 3 事前準備については、交流校との打ち合わせ機会を多く設定する。事後については、振り返る機会を、教師・生徒共に設けて今後活かす。
訪問教育 重点目標 (2)	1 生活リズムを整え、生きる意欲を高める力を育むために、家庭、医療、福祉との連携を図る。 2 定期的なスクーリングの実施や当該学年と同課題の設定、タブレット映像での学習交流、校外活動への参加を通し同年代の友達と触れ合う機会を充実させる。	1 行事への参加時には主治医からの意見書を参考にしたり、リハビリを見学して理学療法士からの指導助言を活用したりして、活動内容や学習内容を充実する。 2 学部学年の教師と積極的に連携を図り、学習内容の設定をしたり、学校の様子を映像で見たりしながら、同学年の友達や他者と触れ合うことで豊かに生活できるようにする。

	学部・分掌目標	具体的な取組
支援部 重点目標 (2)(4)	1 全校児童生徒の状態を把握し、校内の関係部署や外部の関係機関と有効につながり、支援する。 2 家庭・福祉・学校の連携を推進し、児童生徒へのより良い支援を行う。	1 担任・学年・学部間でも情報を共有できるように報告・相談用紙を活用する。日頃の様子や情報を必要に応じて校内の関係部署と共有する。また福祉や専門家につながり、児童生徒の支援をすすめる。 2 三者間の連携について職員会議等で周知する。保護者にはプリント配布及び懇談会等で説明を行う。連絡帳の共有や個別の教育支援計画作成において関係機関と連携を希望するかの確認を行う。事業所にはプリント配布やホームページ、連絡協議会等で周知を行う。日々の情報共有や連携会議等には適宜対応する。
総務部 重点目標 (2)(3)	1 ホームページやイオン学校展、オープンスクール等を通して、本校の特色を発信し、保護者や地域への理解と啓発活動を推進する。	1 行事や日常の授業等の様子が、より伝わる写真を選定してブログを掲載する。 2 各学部の特色が伝わる授業内容や行事の様子を掲載したスライドを作成する。ホームページへの掲載や説明会等で学校紹介ビデオとして活用する。
教務部 重点目標 (4)(5)	1 改編した教育課程を実践する中で、出てきた課題を整理しさらなる改善につなげる（キャリア教育につながる教育課程を編成する）。 2 授業内容の精選（実施する単元の整理）と3観点を踏まえた評価規準の作成を行う。	1 各種教育課程委員会において、改編した教育課程の問題点や課題点を整理する。また、問題点や課題点について協議を行い、次年度以降の教育課程につながるように改善する。 2 各学部で各教科・領域の指導内容（単元）を再確認する。児童生徒の実態に合わせて内容を見直す。さらにそれぞれの単元について、3観点を踏まえた評価規準を作成する。
進路指導部 重点目標 (2)(5)	1 個々の生徒の進路希望に対応できるよう幅広い情報を収集し、提供する。 2 卒業後の進路について関心を持てるよう、進路行事の在り方や内容を工夫する。	1 進路通信やキャリアガイドブックを活用し情報を発信する。掲載内容を精選し、わかりやすく伝えるように工夫する。また、パンフレット置き場を充実させる。 2 校内実習や現場実習、卒業生を迎えての懇談会等の行事を活用し、生徒自身が進路について考える機会を設ける。
生徒指導部 重点目標 (1)(2)	1 児童生との実態や感染症等の状況に応じた、児童生徒の活動を推進する。	1 コロナ感染状況により訓練行事などを見直し、取組む。 2 児童生徒が主体的に生徒会活動に取り組むことができるように推進する。
保健部 重点目標 (1)(2)(4)	1 児童生徒が健康で、安心、安全な学校生活を送るため、状況に応じた感染症対策を継続する。 2 児童生徒に自らの健康を守るための能力を身に着けられるように、感染症の予防対策を含む保健学習を行う。 3 安全・安心な学校給食の実施に努め、旬の食材を使用するなど、献立内容の充実を図り、学校給食を「生きた教材」として活用した指導を行う。	1 感染症対策においては、家庭、学校全体で連携する。また、校医などの専門家の意見を参考にする。保護者や教員に積極的に情報発信を行う。 2 月間保健目標及び給食目標についての学習を通じて、心身の健康教育を行う。 3 給食だよりを通じて、食についての情報発信をする。また、「こんだてひょう」の一口メモを活用し、毎日の給食指導につなげる。
研究部 重点目標 (4)	1 校内研修会や学年の研究日等を通して、PDCAサイクルを考えた授業づくりを共通認識し、研究日等を活用しながら、「学びあい、ともに伸びる授業づくり」を学年等で考え、実践する。	1 児童生徒の「つけたい力」を考え、観点別評価シート等を活用して、児童生徒に関わる教師が話し合い、授業前後の評価を行うことで、一人ひとりに適した支援方法を模索する。また、「ほめる」ポイントも確認し児童生徒の意欲を引き立てる雰囲気をつくる。
自立活動部 重点目標 (4)(5)	1 自立活動研究日を計画的に運用し、研修機会を設定する。 2 児童生徒の実態に基づく専門的な指導方法を共有し、充実させる。	1 各学部の状況に応じて自立活動研究日を設定し、効率的に運営する。 2 事例研究・授業研究・専門家の情報等を活用する。